

# 地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成 16 年度より、すべての市立学校で学校評議員制度を導入し、校園長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施してきました。現在、幼稚園においては学校評議員を、市立小学校・中学校・高等学校等学校においてはコミュニティ・スクールとして学校運営協議会をそれぞれ設置し、地域とともに学校運営について考え歩む取組を進めています。

学校評価に関しては、平成 19 年 6 月の学校教育法、同年 10 月の学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が設けられています。このことを受けて、各学校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題についての改善を図っています。

ここに、令和7年度の各学校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各学校園では、この報告書を参考にするとともに、学校園・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるよう努めてまいります。

令和8年 9月  
奈良市教育委員会

## 内容

|                                            |   |
|--------------------------------------------|---|
| 1 学校評議員制度の活用（幼稚園のみ）                        |   |
| 【学校評議員 役職の内訳】 .....                        | 2 |
| 【園長が学校評議員に求めた意見の種類】 .....                  | 2 |
| 【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に生かされた例】 .....         | 2 |
| 2 学校評価の実施について                              |   |
| 【学校評価を進める仕組みの有無】 .....                     | 3 |
| 【学校評価に基づく改善方策の検討を行う体制】 .....               | 3 |
| 【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】 ..... | 3 |
| 【学校関係者評価について】 .....                        | 3 |
| 【学校評価の結果の公表について】 .....                     | 4 |
| 3 学校評価の実際について                              |   |
| 【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】 .....                | 5 |
| 【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】 .....     | 6 |
| 【学校評価の結果から見てきた課題に対する対応】 .....              | 7 |
| 4 学校評価と学校ビジョン                              |   |
| 【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】 .....     | 8 |

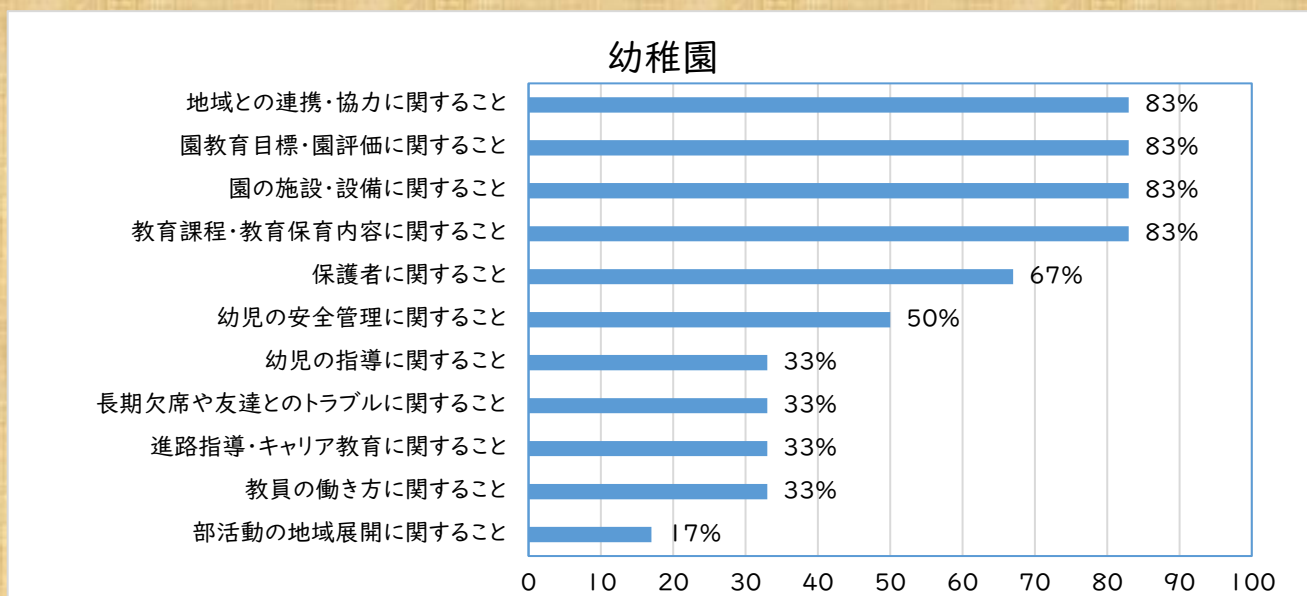
## I 学校評議員制度の活用（幼稚園のみ）

### 【学校評議員 役職の内訳】

| 役職の内訳     | 人数  |
|-----------|-----|
| PTA関係     | 7人  |
| 民生関係      | 5人  |
| 自治会関係     | 1人  |
| 教員関係      | 1人  |
| 各種協議会     | 2人  |
| 地域活動関係    | 1人  |
| 社会福祉協議会関係 | 3人  |
| 合計        | 20人 |

※小学校・中学校・高等学校等学校では、学校評議員に代わって学校運営協議会を設置しています。

### 【園長が学校評議員に求めた意見の種類】



### 【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に生かされた例】

- 学校運営協議会の中での意見交流や情報交換が出来たことで来年度の取り組みのヒントになり、地域の課題に対しての共通理解につながった。また、職員や地域の方と活発な意見交流が出来た。
- 「小1ギャップ」を防ぐため、地域教育協議会で「おかえり子育て交流事業」を行った。

園長が学校評議員に求めた意見の種類を見ると、「園教育目標・園評価」「教育課程・教育保育内容」「園の施設・設備」「地域との連携・協力」に関する内容がそれぞれ 83%と非常に高く、園運営の基盤や地域との関わりにおいて幅広く意見を求めていることが分かります。

こうした意見交流や情報交換は、地域の課題に対する共通理解や次年度に向けた取組の大きなヒントとなっています。具体的な活動の実施など、地域・保護者と一体となった協働による教育活動の改善に直接結びついています。

## 2 学校評価の実施について

### 【学校評価を進める仕組みの有無】

| 学校評価を進める仕組み            | 幼稚園 | 小学校 | 中高等学校 | 全体  |
|------------------------|-----|-----|-------|-----|
| 学校評価を行う校内の委員会を組織している。  | 33% | 93% | 81%   | 84% |
| 学校評価を行う校内の委員会を組織していない。 | 67% | 7%  | 19%   | 16% |

### 【学校評価に基づく改善方策の検討を行う体制】

| 学校評価を進める仕組み      | 幼稚園 | 小学校 | 中高等学校 | 全体  |
|------------------|-----|-----|-------|-----|
| 全教職員参加の体制で行っている。 | 33% | 54% | 67%   | 56% |
| 主に担当者が行っている。     | 67% | 46% | 33%   | 44% |

### 【外部アンケート(児童生徒・保護者等を対象としたアンケート)の実施割合】

|             | 幼稚園  | 小学校 | 中高等学校 | 全体  |
|-------------|------|-----|-------|-----|
| 年に1回実施      | 100% | 95% | 95%   | 96% |
| 年に2回実施      | 0%   | 5%  | 5%    | 4%  |
| 実施していない・その他 | 0%   | 0%  | 0%    | 0%  |

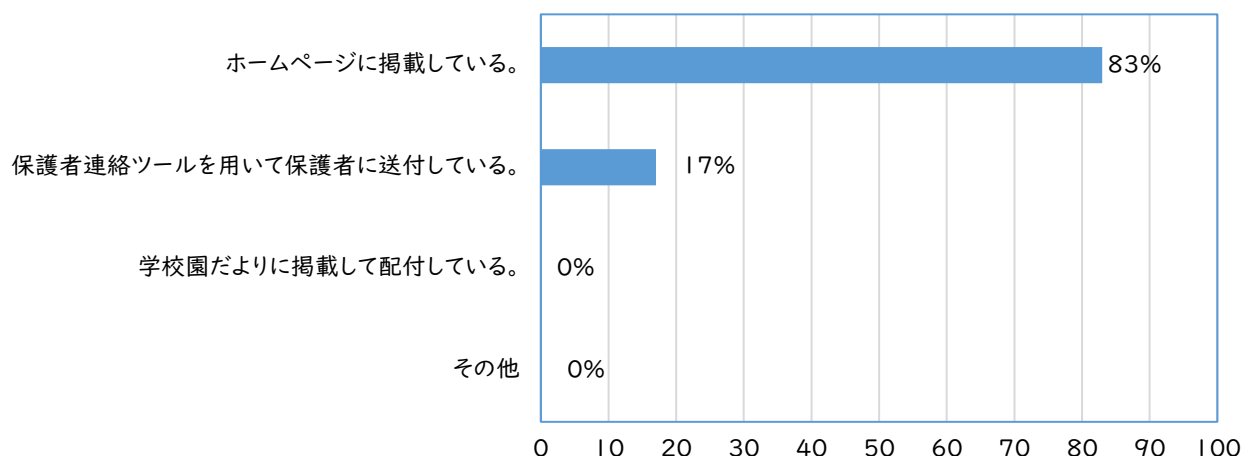
### 【学校関係者評価について】

|                                                    | 幼稚園 | 小学校 | 中高等学校 | 全体  |
|----------------------------------------------------|-----|-----|-------|-----|
| 評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。                    | 33% | 46% | 52%   | 47% |
| 学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。 | 67% | 80% | 71%   | 76% |
| 評価はアンケート形式で回答を求めている。                               | 67% | 27% | 29%   | 31% |
| 評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。                 | 33% | 88% | 33%   | 66% |

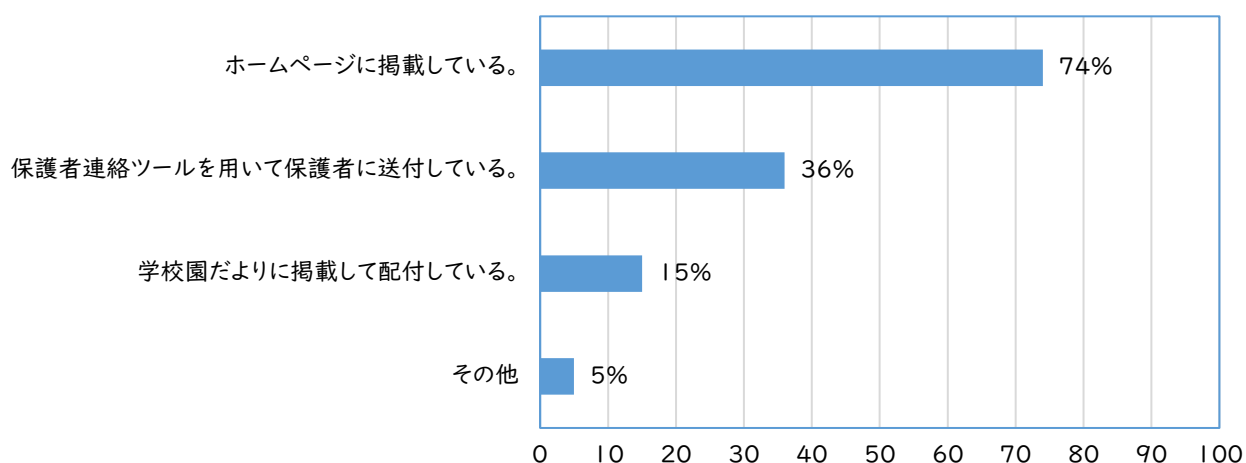
すべての学校・園で年1～2回の学校評価アンケートが定着しており、活動の公開や直接的な意見交換など、対話を通じた相互理解の取り組みが行われています。あわせて、自己評価結果の共有や評価手法についても、各校種の特性に応じた連携が図られています。

## 【学校評価の結果の公表について】

### 幼稚園



### 小学校・中学校・高等学校



学校評価結果の公表方法においては、ホームページへの掲載が最も高く、幼稚園では83%、小学校・中学校・高等学校では74%の実施率となっています。

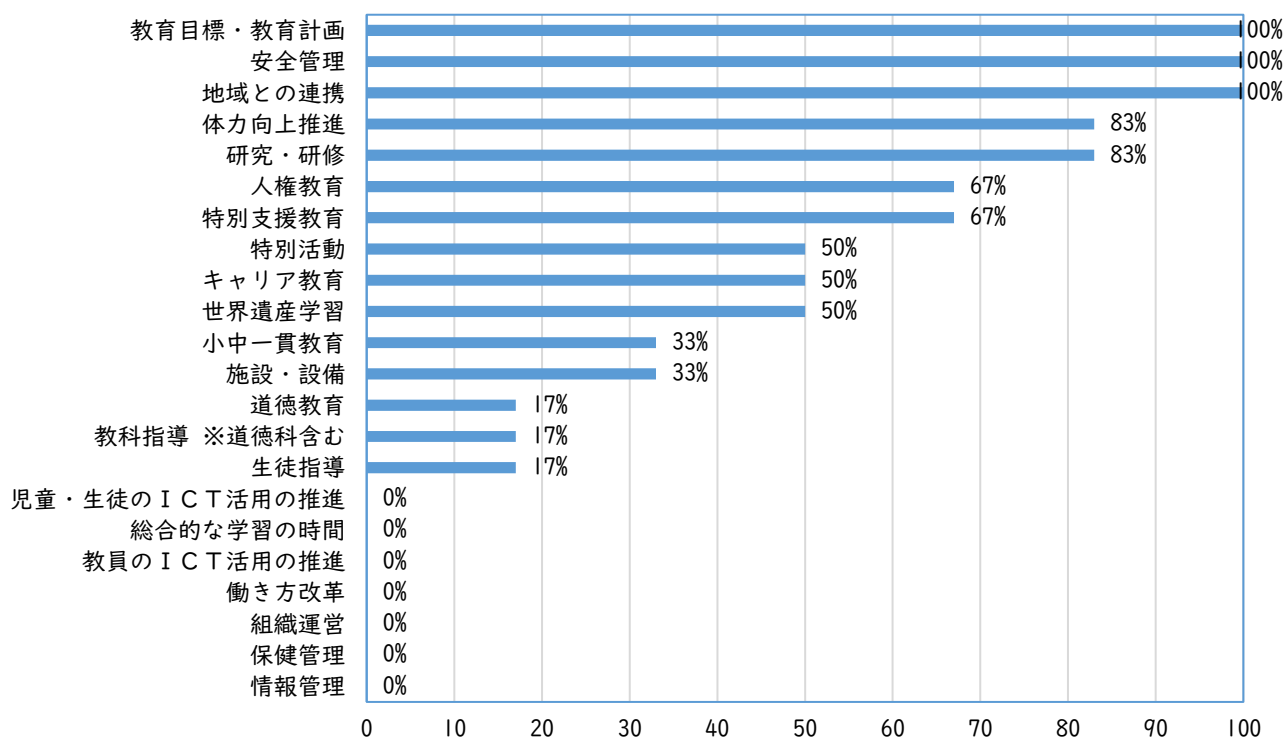
次いで「保護者連絡ツールの活用」が幼稚園では17%、小学校・中学校・高等学校では36%であり、ホームページとともに複数の公表手段が活用されています。

また、総会での説明や学校運営協議会委員への報告など、対面により直接的に情報共有をしている場合もあります。

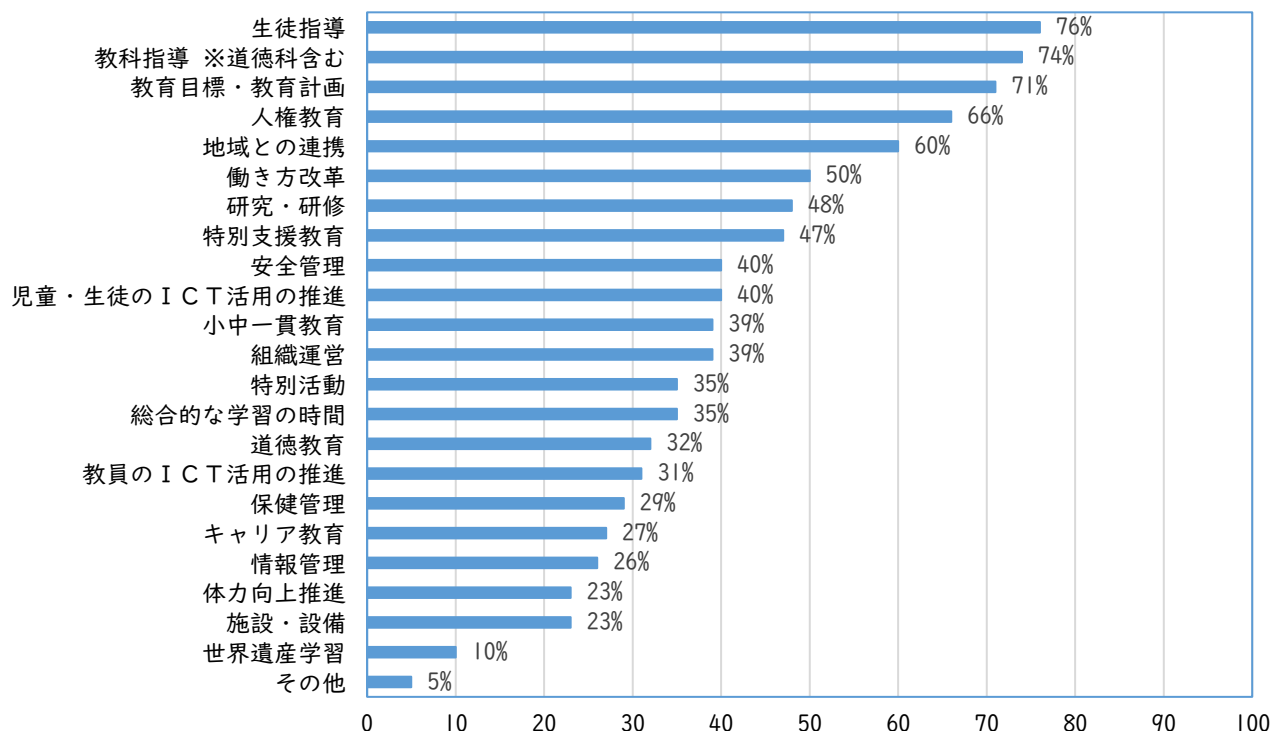
### 3 学校評価の実際について

【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】

#### 幼稚園



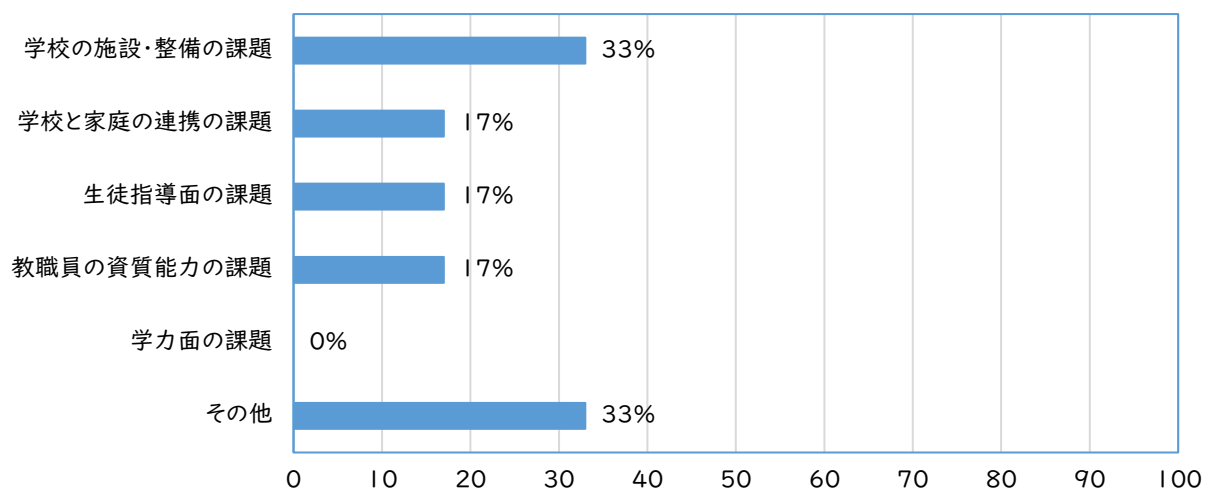
#### 小学校・中学校・高等学校



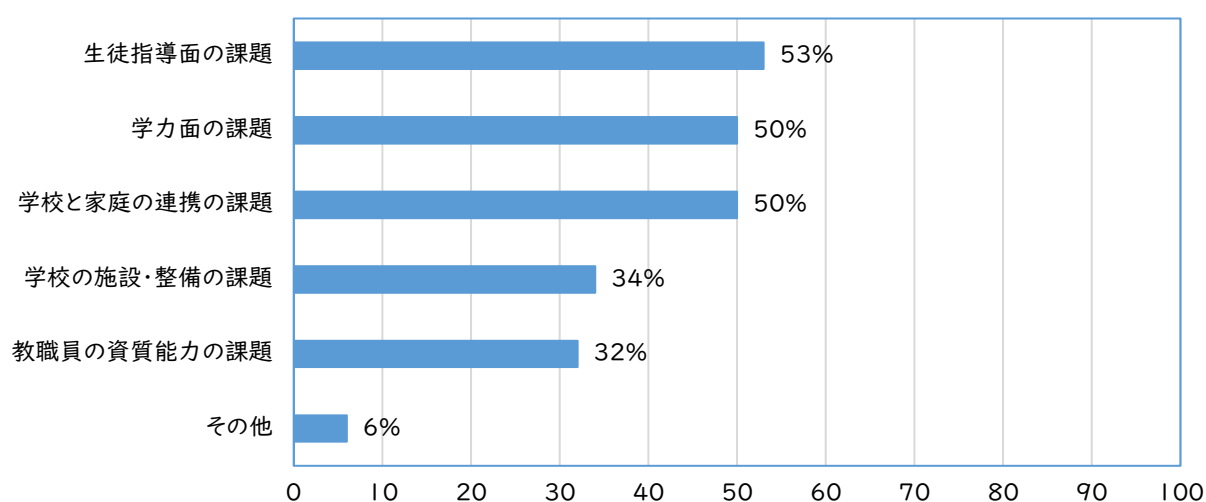
「教育目標・教育計画」「地域との連携」「人権教育」「研究・研修」は、幼稚園、小・中高等学校のいずれの校種でも高い設定率を示しており、共通して取り組まれているテーマです。各園・各校では、こうした全校種共通の項目に加え、子どもたちの発達段階に応じた項目をそれぞれ設定し、取り組みを進めています。

【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱える学校園経営上の課題】

### 幼稚園



### 小学校・中学校・高等学校

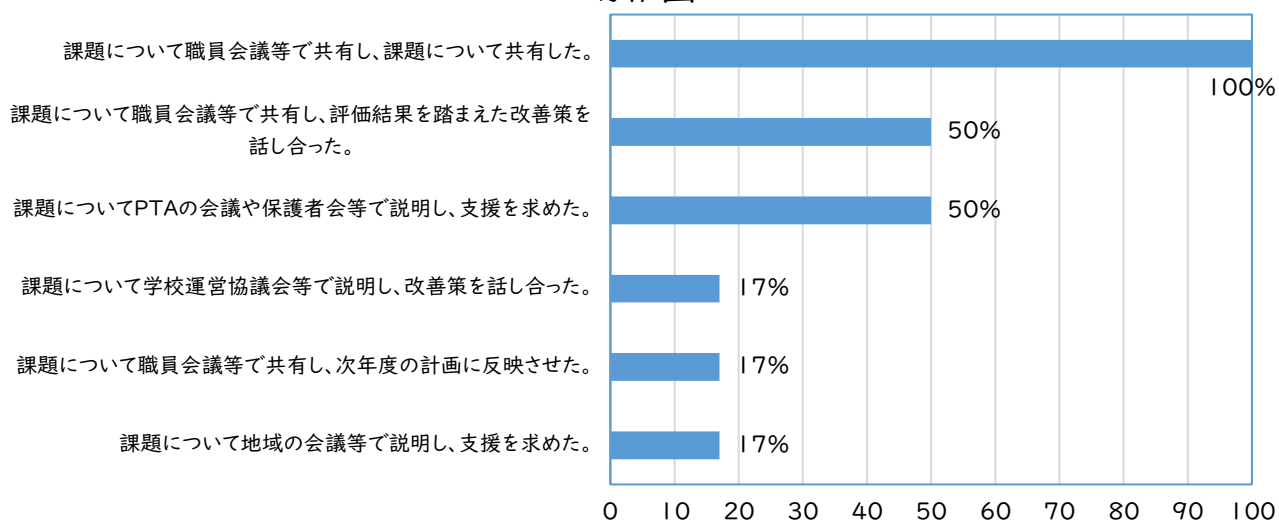


学校園経営上の課題として、幼稚園では「施設・整備の課題」が最も重視されています。小学校・中学校・高等学校では「生徒指導」「学力面」「家庭連携」といった課題が上位を占めています。

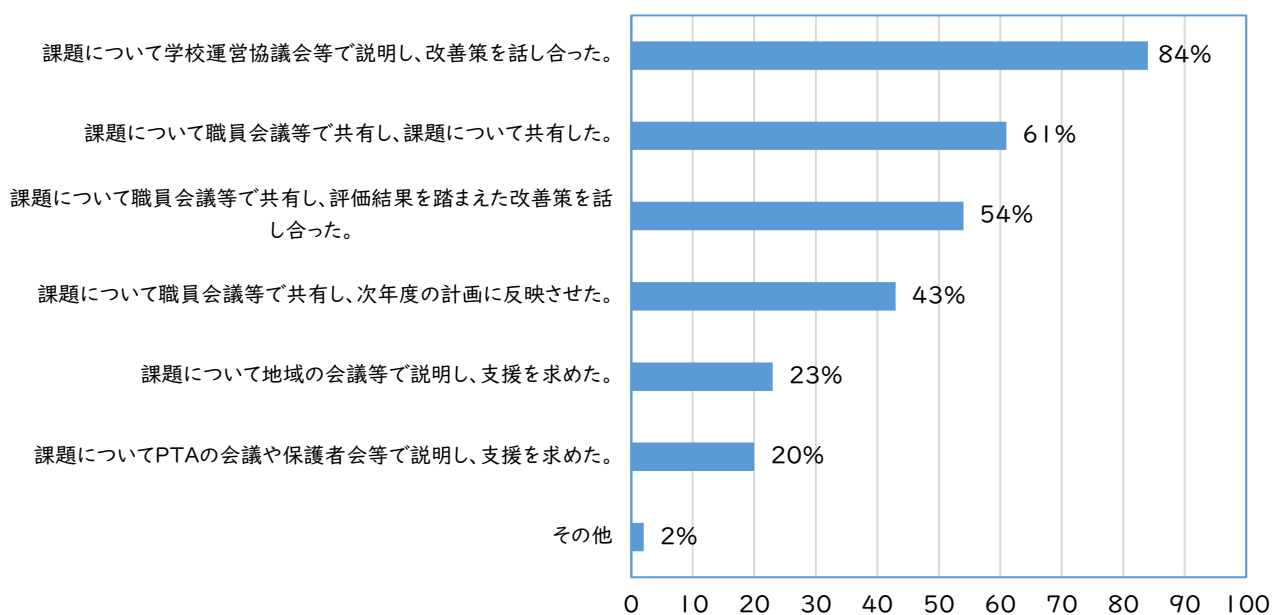
校種による特性の違いは見られますが、「学校の施設・整備」や「家庭との連携」、「教職員の資質向上」といった項目は、すべての校種で共通して経営上の課題として捉えられており、環境整備と組織力の充実が共通のテーマとなっていることが伺えます。

## 【学校評価の結果から見えてきた課題に対する対応】

### 幼稚園



### 小学校・中学校・高等学校



幼稚園では「職員会議等での課題共有」が100%であり、まずは園内・教職員間での現状把握と意識共有が図られていることが伺えます。一方、小学校・中学校・高等学校では「学校運営協議会での改善策の話し合い」が84%と最も高く、地域や外部関係者とともに協働的な課題解決が行われていることが伺えます。

また、幼稚園では保護者会などの場を、小・中・高等学校では学校運営協議会等を効果的に活用しており、それぞれの校種に応じた形で、保護者や地域といった外部との協働による課題解決への取り組みが共通して行われています。

## 4 学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容より】

[学校教育目標に関すること]

- 学校教育目標のマイナーチェンジを行い、目指すべき方向を児童・教職員が自分事として捉えられるようにする。
- これまでの実践を「不易（人間性・基礎学力）」と「流行（ICT・探究学習）」に整理し、活動を重点化して教職員が子どもと向き合う時間を生み出す。
- 学年や校務分掌ごとに「何を、いつまでに、どの水準まで行うか」の具体的な行動指標を共有し、学校全体が一枚岩となって推進する。

[学習・授業改善等に関すること]

- 保護者アンケートの結果を真摯に受け止め、児童が「わかる・できる」授業を展開できるようにビジョンの重点目標に据える。
- 生徒が安心して自らの考えを表現できるよう、対話を通して学ぶ機会を増やし、主体的な発言や疑問を歓迎する学習文化を定着させる。
- 生徒が自ら計画を立てて学ぶ習慣を定着させるため、単元ごとに評価する「単元テスト」の導入を検討し、日常的な指導と評価の在り方を再考する。

[児童生徒の生活指導、人権教育について]

- 生徒指導や不登校等への対応事案が増加する中で、組織的に対応できる体制を作る。
- 単に「挨拶をしましょう」と指導するのではなく、児童運営委員会を中心とした「自分たちが地域を明るくする」プロジェクト型活動へ転換。地域のボランティアをゲストティーチャーに招くなど、自然に挨拶が生まれる土壌をつくる。
- 教職員研修の充実と子どもたちへの問いかけを行い、いじめや人権、地域でのマナーについて実生活と結びつけた学習の場をさらに強化する。

#### [家庭・地域との連携について]

- 学校と地域の連携をベースにしながら、保護者を巻き込んだ学習機会を増やし、指導における合意形成を図る。
- 小規模校や複式学級における人間関係の固定化を防ぎ豊かな学びを保障するため、他校とのオンライン学習でつながり、協働学習の機会を多くつくる。
- 園児数の減少に対応し、異年齢のかかわりを通して子ども同士が育ち合う保育内容の検討、近隣の保育園・小学校との交流機会を計画的に設定する。

#### [教職員の資質向上について]

- 多くの研修をこなすのではなく、アンケートで見えた課題に絞った「短時間・高頻度」のミニ研修を校内メールや会議で実施する。
- 学力向上に対する共通認識を持てるよう、小学校・中学校の教員がお互いの授業参観や交換授業を積極的に実施する。
- 職員が自由に自分の意見を言え、お互いを尊重し合える職場環境づくりを第一とし、教員の同僚性をさらに高める。